

## メッセージアウトライン コリント人への手紙 第二13:11~13 「終わりのあいさつ」

[11]「終わりに、兄弟たち。喜びなさい。完全な者になりなさい。慰めを受けなさい。一つ心になりなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます」

パウロはこの手紙を終わるにあたり、コリント教会の人々に「兄弟たち」と呼びかけている。「敵たち」でもない、「憎むべき人々」でもない。「兄弟たち」なのである。これは、イエス・キリストを救い主と信じた者は神の子とされる特権を与えられており、主にあつて霊的に兄弟姉妹の關係にされているということである。→ガラテヤ3:26~29 パウロがコリント人たちにこのように呼びかけているのは、彼があくまでも彼らを愛し、同じ主にあるキリスト者として信頼を寄せているしるしなのである。パウロは彼らが自分の言うことを受け入れ、主にあつて健全に成長していつてくれることを願いつつ、いくつかの勧めをしていく。

①喜びなさい。…パウロは他の手紙でもこの勧めをしばしばしている。→Iテサロニケ5:16、ピリピ4:4 この勧めの根本的な理由は、イエス・キリストが私たちを罪と死と滅びから救ってくださったということにある。この事実がある限り、私たちは心の中に喜びを持つことができる。またこれは御霊の結ばせてくださる実でもある。→ガラテヤ5:22 ②完全な者になりなさい。…これは9節でも言われていたが、全体に調和のとれた健全な成長したクリスチャンになること。③慰めを受けなさい。…慰めは苦難に耐える力を与える。神からの慰め、人からの慰め、お互いどうしの慰め。そのように慰められることによって困難と誘惑、失意や戦いの中にある者は、もう一度力づけられて立ち上がることができる。→IIコリント1:3~4 ④一つ心になりなさい。…これは教会のかしらである主イエス・キリストの心を心とする一致の勧め。→使徒1:14、2:46 ⑤平和を保ちなさい。…これは④と密接な關係がある。一つ心になるならば、当然IIコリント12:20でパウロが心配しているようなことはなくなる。そしてその結果、平和が実現することになる。この勧めに従う者たちに与えられるものは、「愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます」という素晴らしい約束である。

[12a]「聖なる口づけをもって、互いにあいさつをかわしなさい」

これは勧めの⑥となる。これは当時のユダヤ人の習慣であり、現代で言えば西洋式ならば握手。日本式ならばお辞儀ということになるろう。習慣も考え方も違う私たちがその外形的なことをまねする必要はなく、むしろその内容を重んじて、「心からのあいさつを交わす」と考えればよいであろう。

[12b]「すべての聖徒たちが、あなたがたによろしくと言っています」

これは今パウロが滞在中のマケドニアの兄弟姉妹たちのことであろう。彼らはコリント教会を異端児扱いせず、親しく主にある兄弟姉妹としてあいさつを送っている。教会とはなんと素晴らしいものであろうか。

[13]「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように」

この手紙の結びとして、パウロは三身一体の神からの祝福を祈る。彼は問題の多いコリント教会の兄弟姉妹たちに三位一体の神の働きを、その生活の中に自ら体験するようにとの願いを込めて祈っているのであろう。これは、コリント教会だけではなく、全世界のキリストのからだである教会が真に必要としている神の祝福である。